令和４年度　交通信号設計士　実務試験解答

問１　(50 点)

①　６何の原則で記述されていること。(25 点)

いつ、どこで、だれが、何を、どのように、なぜしたか。

【解答例】

私は、多現示化(矢印追加)の改良工事の信号機図面を作成するために現地で調査を実施していました。現場のケーブル数を確認したところ１本余裕があると思い込み、材料積算表に追加しませんでした。

②　具体的に６何の原則で解答されていること。(25 点)

【解答例】

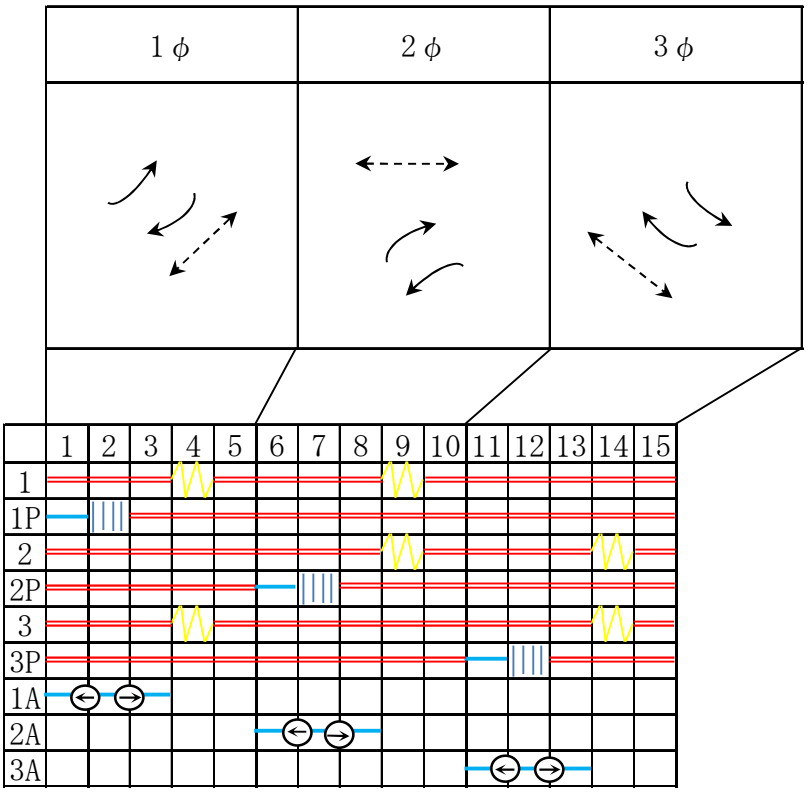
現状のケーブル数の確認

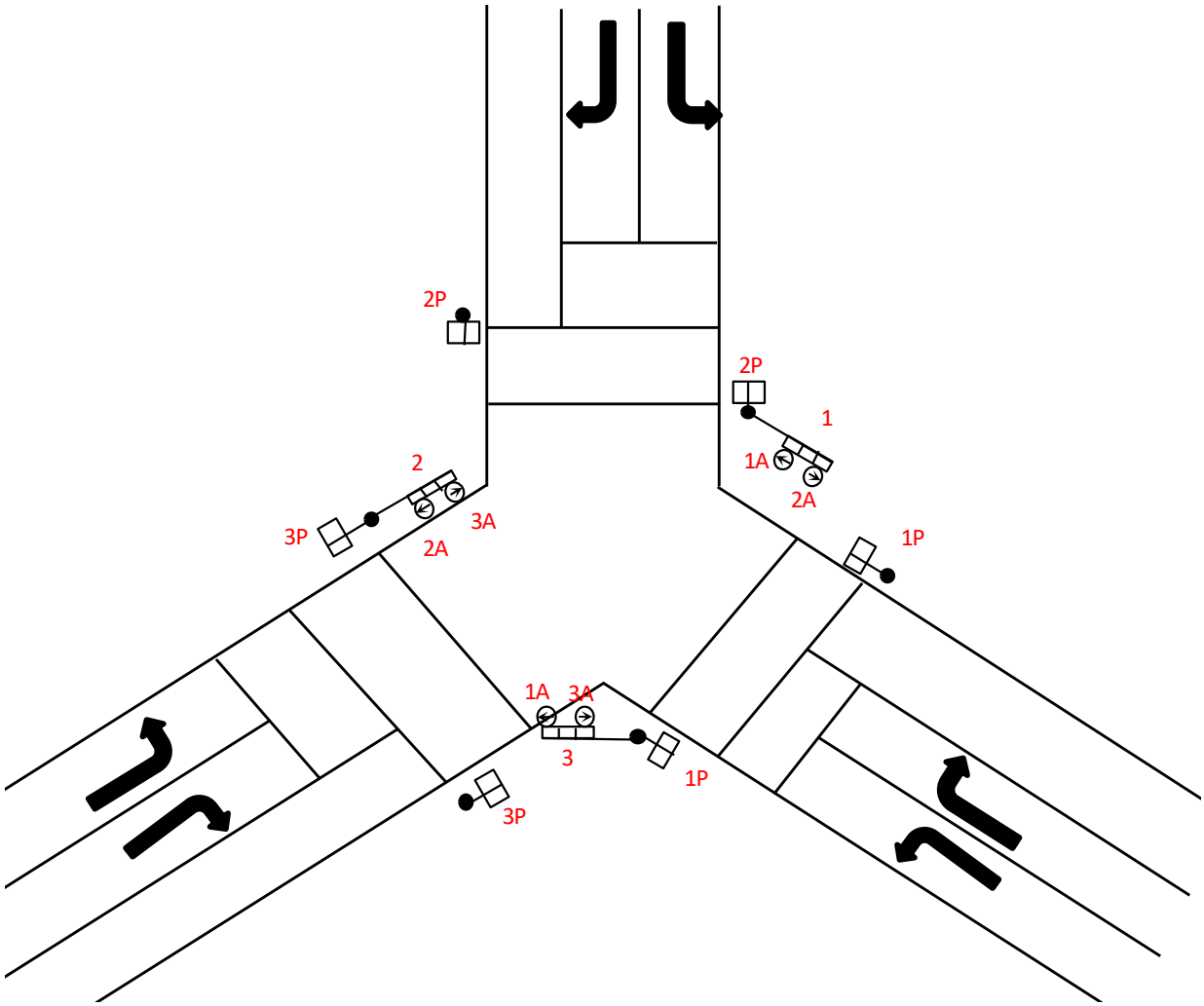
上司、同僚への確認依頼

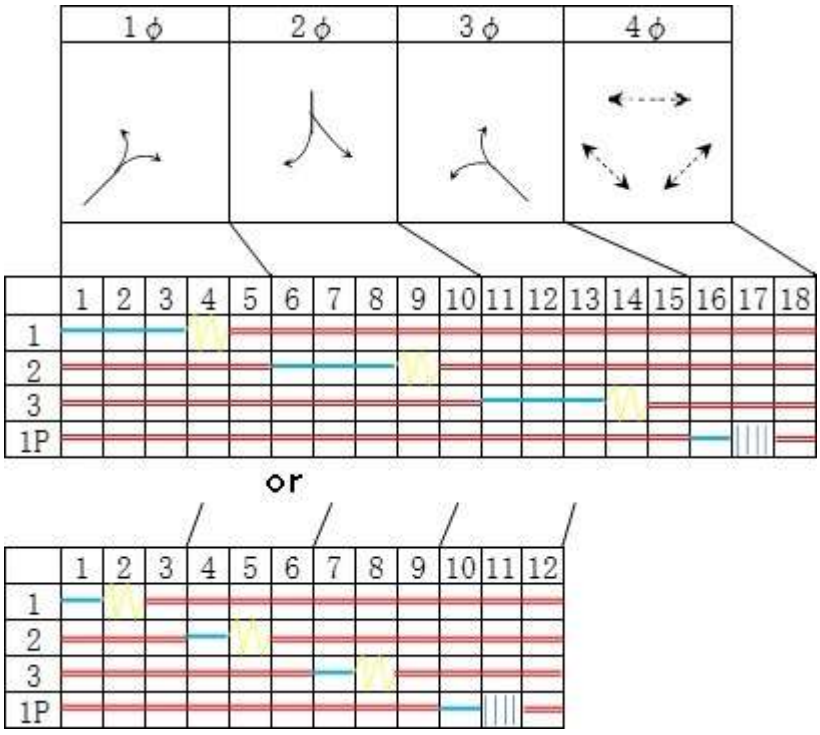
を徹底する。

問２　歩車分離（セパレート）式を解答とする。(50 点)

安全と円滑を確保するためにセパレート制御である。




2P
2P
1
1A
2A
2
3A
2A
3P
1P
1A
3A
3
1P
3P

歩車分離（歩行者専用現示）式の解答では ~~20/50 点~~※とする。
その場合車両青を 1or3 ステップで構成してもよいとする。

※「20/50 点」とあるを「35/50 点」とし、配点は、流れ図：４点、流れ図と現示階梯図の対応を示す線：４点、現示階梯図：２７点とする。
（2022.11.10 修正）